

2025年度上智大学体育会サッカー部OB総会議事録

I. 開催日時 : 2026年1月31日(土) 11:00~12:30

II. 場所 : ソフィアンズクラブC会議室、Web併用

III. 参加者 {敬称略、()内は卒年}:

直野(65)、中迫(77)、桑江(88)、山崎・松本(89)、神尾(90)、伊藤(91)、田内(92)、藤田(96)、斎藤(97)、
西村(05)、小堀(4年)、塙(3年)、澤田(87)

IV. 議題

1. 報告事項

(1) 25年度の現役活動報告

- ・ 塙新主将から別添1のP3~4の資料により以下の報告があった。
 - a. 概ねほぼ順当に勝ち点を重ね、無事に一部復帰という結果になった。
 - b. 新チームで臨んだ東京カップも新戦力が機能し良い試合ができたが、リーグ戦までに関東昇格を目指すチームとして完成度は高めていきたい。
- ・ 小堀前主将から、リーグ戦は一戦一戦を振り返ると難しい試合もあったが、コンスタントに勝利を重ね一部復帰を果たせた。その過程で色んな選手の活躍があり、関東昇格にチャレンジする今年に繋がるシーズンとすることができた。OBの皆さんには感謝申し上げます。
- ・ 質疑
 - a. 東京カップは塙くん、田中くんが得点者となっているが、選手層の厚みは十分か？(西村OB)
⇒17~18名の選手が同等の戦力となっており、選手層は十分と認識している。今年1部で対戦する朝鮮大学には勝利した。セレクションで戦力が上がっている桜美林は関東大会もあり実質はBチームだったが、十分に手応えは感じている。(3年塙)
 - b. 新戦力は加入する予定があるのか？(澤田)
⇒帝京から3名、桐光学園からも1名入学が決まっている(3年塙)
OBが入学している強豪校には父兄とも連携し、指導者に対してアプローチしてゆくことを検討したい。(山崎OB)
 - c. OB会長会からソフィアスポーツ大賞の推薦依頼が来ているが、東京・神奈川2部優勝/1部復帰を理由にサッカー部を、東京・神奈川2部の最優秀選手である小堀主将を優秀選手(個人表彰)に推薦する。(澤田)

(2) 25年度OB会活動報告について

- ・ 議長から別添1の資料P5~9により、25年度の支援状況ならびに主な活動内容ならびに現状の課題について報告があった。

- ・山崎副会長をはじめ、幹事の頑張りでも、ならびに現役のOB訪問も奏功し、支援者数、支援金収入が大幅に増加した。(澤田)

質疑は以下のとおり

- ・高年齢層のOBの支援状況は減少が始まりつつある。それ以外の支援は大幅に増加した。若手OBの支援も増加しているが伸び代が大きい。ラグビーやアメフト等他のOB会との比較では、支援率において改善の余地が大きい。(澤田)
- ・特に他の世代との比較で11年卒から20年卒の世代の支援率が8.5%というのが問題と感じる。世代の幹事から前後のOBに地道に声かけをしてもらうのが得策と思われる。昨年の卒業生に口座振替書を発送、3名の申請があった、他は振込も無し。今年卒業予定の新OBも口座振替書を発送予定。(中迫OB)
⇒小堀前主将も同意。
- ・口座振替の利用はどんな状況か？(山崎OB)
⇒現状28名、前年から8名増加。(澤田)
- ・今年は「口座振替元年」として、11年以降卒のOBに口座振替の利用を促進してほしい。現役のOB訪問も、その点を踏まえて進めて行くと良い。また25年我々世代はグループLineを通じて声かけして成果につながった。世代ごとに目標数値を持って、同様に動きをしてゆくことが得策と思う。また幹事同志での呼掛けも一考しても良い。(山崎OB)
- ・口酸っぱく声掛けするのも限界がある。響かないOBもいるのは事実であり、支援したくなるような仕掛けをもっと考えてゆく必要がある。(西村OB)
- ・支援率を上げるために記念品やグッズ提供も一考しても良い。(神尾OB)
- ・本来会費や支援は自発的なものであり、趣旨を逸脱すると捉えるOBにも配慮したほうが良い。(田内OB)
- ・GM的な活動のなかで、一昨年はスポンサーとの契約等をチェックしてきた。その後はどうなっているのか。また、現役が求めることがあれば確認したい。(藤田OB)
- ・現役会計から、昨年の収支の状況は以下のとおり確認した。
⇒収入は約12940万円。OB会、他寄付(DYM・たまプラーザ治療院)が約240万円。上智学院とソフィア会から約100万円、部員の負担(部費、ユニ代、合宿費等)が900万円。支出は主に登録費・大会参加費(180万円)、グラウンド代(116万円)、合宿代(280万円)、トレーナー謝礼(150万円)、ユニ代(170万円)、備品等・その他で約300万円。90万円が次期繰越となっている。(中迫OB)
⇒詳細は別途幹事会で報告してほしい。(澤田)

(3) 26年度OB会活動計画について

- ・議長から別添1の資料P10~11により活動計画について報告があった。
- ・25年度活動報告のなかで既に議論したが、活動のポイントは以下のとおり。
 - a. 支援者数の増加(150⇒200名に) : 支援率24.2%⇒32%)
 - b. 会費・支援金(200万円⇒220万円)ならびに納入方法の柔軟性検討
 - c. メルマガ(Mail,Facebook)以外の通信手段の検討。例)Lineのオープンチャット他
 - d. 現役サポートスタッフの増加

- e. 名簿のアップデート（データ更新、印刷の可否、データの保管方法他）
- f. 100 周年（2031 年）に向けたOB会の活動世代
- g. 真田堀グラウンドの人工芝化への活動
- ・ 100 周年に向けたOB会活動の元年として、山崎副会長と一緒に他大学OB会の状況を調査し、望ましいOB会のビジョンとロードマップを無理のない範囲で作ってゆく所存。各OBの積極的な参加・協力をお願いしたい。西村OBの指摘もあったが、そのためにOB会そのものをもっと魅力あるメンバーシップにしてゆきたい。（澤田）
- ・ 既に慶応サッカー部の例を関係者からヒアリングしている。創部 105 年であり、10 年しか差がない。OBの規模は 1200 名と上智の約 2 倍の違いはある。社団法人化もしており、OB会費は一律 2 万円で支援率 70%超。スポンサーも 9 社と契約している。我々よりも一桁多い予算規模になっている。上位で活動している期間・知名度等の差はあるが、社会に出てからのOBの活躍ぶりにさほど差はなく、OBになってこそ価値を感じるOB会を目指したい。特に所属する会社以外に頼れる先輩がいることは有難いことであり、多数のOBに共感を得られるOB会にしたいと考えている。会長と私が中心になって考えてゆくが、もっと多くのOBの協力が必要であり理解してほしい。（山崎OB）

2. 決議事項

(1) 25 年度会計報告について

- ・ 報告に先立って、議長が監査役の森OBより 1 月 7 日付で「適切に会計処理している旨報告があった」ことを報告した。
- ・ 別添 4 により、会計幹事である齋藤OBから報告があった。
- ・ OB会長会懇親会費と ASF 懇親会費の入繰りについて確認があり、修正した。合計の収支に変更はなく承認された。

(2) 26 年度予算について納付状況

- ・ 別添 5 により、会計幹事の齋藤OBから報告があった。
- ・ 次期繰越金にプラス 10 万円、活動計画の報告を踏まえてOB並びに現役との交流活性化のために祝賀会準備金として 5 万円積み増し修正した。
- ・ 収入の部は、15 万円支援金増加を積み増した。
- ・ 以上を修正し承認された。

(3) 役員の一部改選について

- a. 会長・副会長（総会承認事項）留任
 - ・ 議長より「山崎副会長に会長職をバトンタッチする予定でしたが、先ほど触れた 100 周年に向けた体制づくりという面もあり、任期のとおりもう一年現体制で継続する。」ことで合意した。
- b. 副幹事長（幹事会互選）
 - ・ 議長より副幹事長に山野OBが就任することの報告があった。
 - ・ 以上に関して参加者から異議はなかった。

3. その他

(1) 帯同スタッフの交通費・日当のルール化について

- ・ 森監査役から表題について確認依頼があったことを議長から報告した。
- ・ 幹事会で既に協議し、交通費実費と日当は 3,000 円を支払うことで運用している。(中迫 OB)
- ・ 会計幹事より日当もそのルールで運用されている旨報告。(斎藤 OB)

(2) ソフィアスポーツ大賞の推薦について

- ・ 議長より、ソフィアスポーツ大賞にサッカー部、小堀廉太郎主将を推薦することを改めて報告。

(3) その他

- ・ 総会は Zoom で Web 会議形式にしており、参加者が増えるよう直前にも案内を出したほうが良い。また、現役の試合を Live 中継していただくと有難い。(直野 OB)
⇒YouTube で発信できそう。
- ・ 現役が GM をはじめOB会に求めていることの確認を改めてしたい。(藤田 OB)
⇒別途直接意見交換したい。(山崎 OB)
- ・ 現役が 1 部に復帰し、更に強くなることで支援も増える好循環が生まれることを期待したい。(斎藤 OB)

以上